

第70回入学式 校長のことば

神奈川県立多摩高等学校長 梅田 俊輔

3月の下旬に満開となった今年の桜は、まるでこのよき日を共に祝うかのように雨風に堪え、新入生のみなさんを迎えてくれています。そして、本日は柔らかく温かな春の息吹を感じさせてくれる、またとない入学式日和となりました。

ただ今入学を許可しました、第70期生277名の皆さん、ご入学おめでとうございます。またご臨席の保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。また、本日入学式を執り行うにあたり、お忙しい中ご来賓の方々のご出席を賜りました。高い席からではございますが、心よりお礼申し上げます。

さて、本校は昭和31年に開校して以来、県内屈指の伝統校として社会の様々な場所で活躍する卒業生を2万人余り輩出して参りました。みなさんはその記念すべき節目の70期生となります。この間、本校は時代の推移とともに様々な取組を行ってまいりました。

令和元年度に文部科学省から指定を受けたSSH(スーパーサイエンスハイスクール)はⅠ期5年間の研究成果が評価され、令和6年度からⅡ期の指定を受けることができました。スーパーサイエンスハイスクールとは、自然科学に対する興味や関心を高め、将来国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を図ることを趣旨としています。数学・理科は言うまでもなく、全ての教科で「主体的・対話的で深い学び」を実践し、論理的な思考力、課題発見・解決能力、コミュニケーション能力等を育成します。SSHでは先進的な理数教育を実施するとともに、大学との共同研究や、国際性を育むための取組を推進しています。また、昨年度本校は神奈川県の学力向上進学重点校に指定され、将来の日本や国際社会でリーダーとして活躍できる人材を育成する役割を期待されています。

本校には「自重自恃」と「質実剛健」という、二つの校訓があります。この二つの校訓の意味するところは、どんな困難な状況の中でも自己を恃む、すなわち自己を大切にして自分を見失わず、自ら未来を切り開いていく力を培うということです。

新型コロナウィルス感染症の流行や生成AIに代表される情報化の波は、私たちの未来が先行き不透明で、これまでの価値観では太刀打ちできない時代が到来したとの思いを強くさせました。こんな時代だからこそ、本校の二つの校訓が、いっそう存在感を増しているように思えてなりません。Society 5.0と呼ばれる未来を生き抜くために必要なものは、「知行合一」、すなわち「知の力」と「行動力」だと考えています。

みなさんはこれまで学習に時間を割き、多くの知識を身につけてきたと思います。そしてこれからも同様に多くの知識を身につけていくことでしょう。それをこれからどう生かすか。「自重自恃」の実現のためには身についた知識を実際に使ってみることが大切なのです。

幕末の思想家、吉田松陰はこの「知行合一」について、次のようなことばを残しています。「知は行の本なり。行は知の実たり。」これは「知識は行動の大本である。正しい行動は深い知識や理解によって実現するものである。」という意味です。つまり、知識というものはあくまで行動のためにあるのであり、実践の伴わない知識は意味がないということです。また、松陰は「学者になってはいけない。」とも言っています。知識だけを蓄え、頭でっかちになつてはいけないということです。そして人間はいかにあるべきか、いかに生きるべきかを学ぶことが学問の本義だとも語っています。

この多摩高校で学ぶみなさんにはぜひ身につけた知識を行動につなげて欲しい。トライアンドエラーを繰り返すことで真の生きる力が身につくはずです。この多摩高校は日々の学習はもちろん、行事や部活動にも力を入れ、それらが生徒たちの自主的な行動によって運営されています。頭でっかちにはならない伝統が息づいているのです。そしてこれこそが、多くの卒業生の方々が育んできたものなのです。これから3年間、あらゆる場面で活躍できる下地がこの多摩高校にはあります。新入生のみなさん、どうぞ精一杯多摩高ライフを満喫してください。

保護者の皆さん、これまで愛情を持ってお子様を支え続けて来られたことに、心より敬意を表します。お子様が自分の力で未来を選択し、社会に貢献しつつ幸せな人生を送れるよう、これからもよき理解者として、成長を見守っていただけたらと思います。何かご不明な点などありましたら、いつでも学校までご連絡ください。我々教職員一同、お子様の学校生活を全力でサポートしてまいります。

それでは、皆さんの多摩高校での生活がいよいよ始まります。充実したすばらしい3年間となることを祈念して、私の祝辞とさせていただきます。本日は本当におめでとうございます。

令和7年4月8日